

AMS-C1 4年代測定試料カード（遺跡発掘調査用）

株式会社 加速器分析研究所 **IAA**

TEL044-934-0020 FAX 044-931-5812

この電子ファイルを弊社ホームページ (<http://www.iaa-ams.co.jp/faq5.html>) よりダウンロードし、ご記入頂けます。

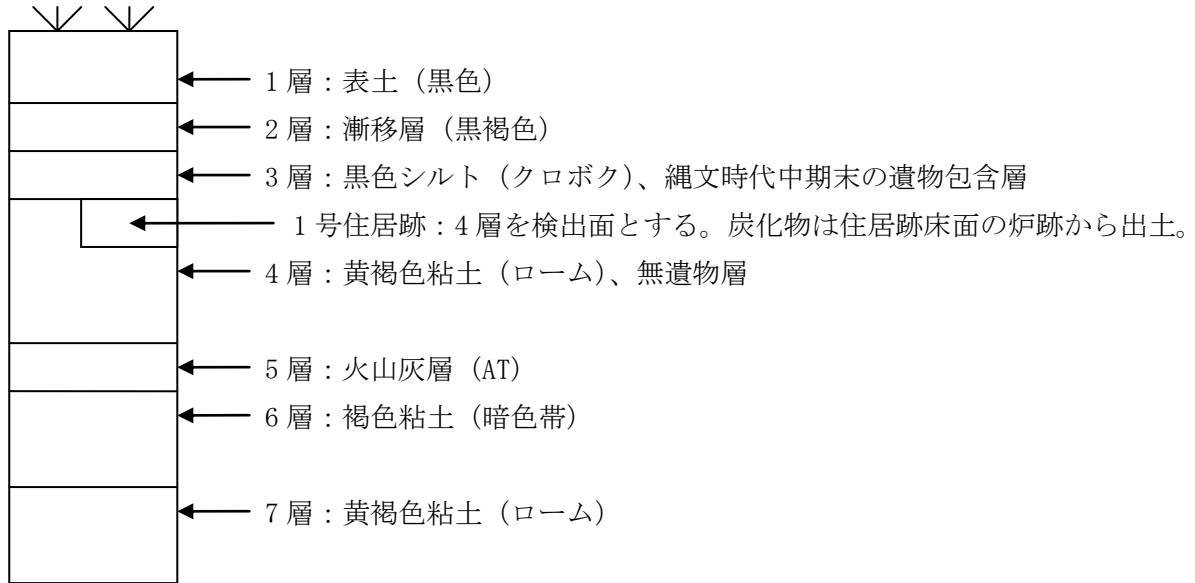
試料名・番号：No.1（遺物 No.2345） 遺跡：〇〇遺跡 遺構：1号住居跡（SI01） 層位：埋土1	
種類：炭化物・ 木炭 ・木片・植物片・土壌・泥炭・貝殻・骨・その他（ ） 土壌・泥炭等は（1.炭化物・植物片など形のある有機物を中から採取して 2. 形のある有機物を除去して 3.有機物と土を合わせ磨り潰して）試料とする	
量：_____ g	特徴（詳細、学名等）：柱材の破片であり、表皮部分を残す。非常にもろい。
採取年月日・採取者名・所属機関 〇年△月×日、採取者●●▲▲、■研究	
遺跡の所在地・立地（国・都道府県・市町村・番地、地形的特徴等） 〇県△市×町字〇。〇〇紀△△世に形成された●段丘面に位置する。▲川と■川の合流点に立地する。 （北緯●° 〇' △" 東経■° □' ▲" ）	
採取点の深さ、環境及び地層の説明、出土状態、年代の異なる炭素（modern 或は dead carbon）の混入の可能性等（可能であれば、柱状図も添付してください） 地表から約60cm、表土（1層）、漸移層（2層）、黒色シルト層（3層）下の黄褐色土（4層）を検出面とした竪穴住居跡（SI01）床面の炉跡から出土した炭化物塊。若干であるが、上部からの攪乱が入り、炉跡に達する木の根等が入り込んでいる。試料自体は攪乱から離れて位置するため、混入の可能性は低い。2層から●●火山灰（△～□年前）が検出されている。	
試料の採取・処理・保存方法（保存処理を行った場合など、通常とは異なる処理が必要になることがあります） 採取後、乾燥させ、アルミホイルに包み、ビニール袋に入れて保存した。保存処理は行っていない。	
年代測定の目的・意義 遺跡内に位置する複数の住居跡の前後関係および集落の継続期間を明らかにしたい。	
炭素量が少なく AMS 測定が不可能な場合、 1.追加試料の送付 2.代替試料の送付 3.中止	残試料の取扱い 1.返却希望 2.希望なし（3年保管後廃棄）
処理方法のご要望（測定の対象を明確にする、特に堆積物などはご注意ください） 軟質であるため、土壌と共に取り上げているが、土壌ではなく木炭の表皮部分を測定。	
従来測定値または予想年代、関連文献（著者名・題・雑誌名、頁を記入してください） 出土土器から縄文時代中期末の年代と推定されている。 文献：〇文化財センター2000「第1編 △遺跡」『△遺跡群発掘調査報告書』 pp.10-40	
報告書に関する指示 暦年較正 1.有 2.無（海洋試料の暦年較正 1.有 2.無） 較正年代の表記 1. cal BC/AD 2. cal BP 〇月〇日までに提出。暦年較正をして欲しい。	
測定依頼者 所属機関：■研究 担当者：●●▲▲ 住所：〒〇〇〇-×××× 〇県△市×町〇-△△ 電話：〇〇〇-△△△-×××× Eメール：〇〇〇@△△.××.jp	
試料・分析方法に関する問い合わせ先（上記依頼者と異なる場合） 住所：〒 電話： Eメール：	
請求先情報（上記依頼者と異なる場合） 宛名： 住所：〒	

電話：

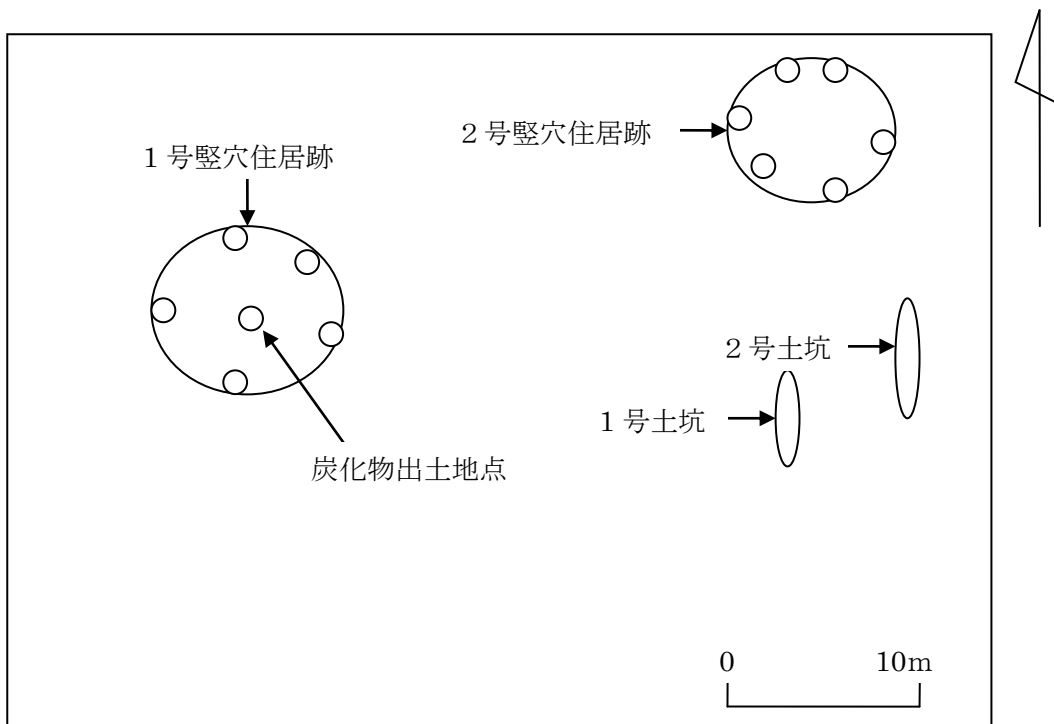
Eメール：

* 試料名・番号、試料の種類は必ずご記入下さい。

(2013年5月改訂)



発掘調査区断面図



発掘調査区平面図